



不透明感増す世界経済

国民投票で、英国のEU（欧州連合）からの離脱が決まった。ある英国識者の言葉を借りれば、英国にとって第2次世界大戦後で最悪の出来事であった。こうした評価が反映されたかのように、離脱の投票結果が出てから市場は、大荒れの状態が続いている。

円は全ての通貨に対して急騰し、ポンドは暴落した。株価については全ての国で大幅に下落した。投票結果が出てから最初に市場が開く、日本市場は最初の直撃を受けた。日本の株価は、日経平均で1000円以上下がるという、異常な状態となった。その後

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

少しかけ株価は回復したものの、今後の情勢については不透明感が漂っている。

私は、たまたまこの時期にドイツに経済会議で出張する予定が入っていた。経由地のフランクフルトに着いたときは現地での早朝、ちよと、世界のマスコミが投票結果に騒ぎ始めていた。会議の場

であるベルリンの政府の建物に入ったときには、欧州の市場が開き始めていた。

当然のことながら、会議は、当初の予定を変更して、この英国離脱の影響や意味を議論する場となった。主催者のドイツの専門家はもちろん、欧州のさまざまな国や米国・カナダの専門家

英国離脱の影響

の意見を聞くことができ、私にとつては有意義な機会となった。実にいろいろな見方が披露された。

当面は市場の大きな反応が注目されるだろうが、これから長期間にわたって広い範囲で影響が及ぶだろう。英国離脱によって英国や欧州、そして世界経済がどのよう

に変化していくのか、その予想があまりに難しいほどに、不確実性や不透明感が高まってしまった。

たいしたことにならないという楽観論から、英国の分裂や欧州統合の終焉という悲観論まで、そのどこに落ち着くのか予想ができないのだ。今後の動きを丁寧に見ていく必要がある。

それにしても、いまさらと言われるかもしれないが、こんな国民投票をする必要があったのだろうか。投票結果を見ると、ロンドンやスコットランドなどの住民の多くは離脱に反対しているのに対して、ロンドン以外のイングランド地域は離脱に賛成した人が多い。若者の多くは離脱に反対であるのに、高齢者の多くは離脱に賛成したようだ。

「分断」顕著 是正厳しく

テレビカメラの前で、「今度の選挙で自分たちの未来は傷つけられた」と、ある若者が叫んでいたのが印象的だった。欧州連合からの離脱によって、英国の経済や社会の将来は非常に暗いものになったと、この若者は言いたかったのだろう。

国民の間で大きく意見が割れる問題について、国民投票によって決着をつけようとするれば、結果的に国民の分断を助長することになる。世代間の分断、地域の間断が英国で顕著になってきたのだ。こうした政治社会情勢が、英国の安定と繁栄にとって好ましいものであるはずはない。英国社会には、今後、こうした分断を是正するための厳しい道が待っている。

選挙で決着をつけるのが、民主主義の基本かもしれない。しかし、英国の今回のケースのように、国民世論が真っ二つに割れているときに、それを多数決で決着しようというのが本当に好ましいことなのか。誰よりも、英国国民がこの点について痛感しているはずだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。